

日日是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

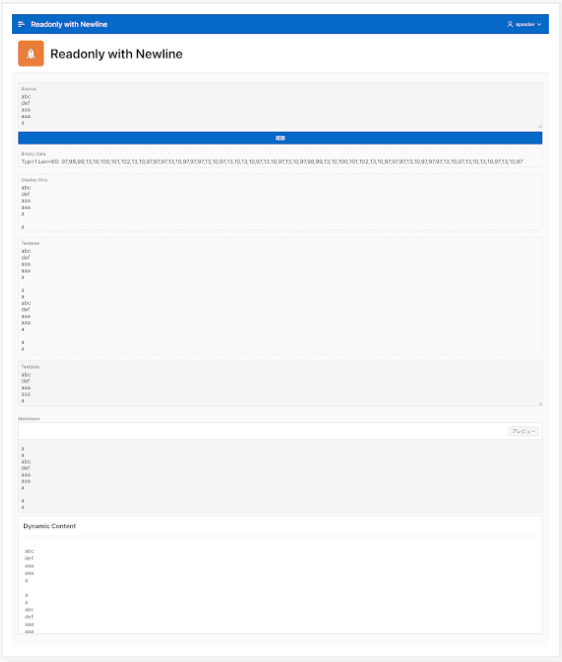
2023年12月6日水曜日

読取り専用のページ・アイテムで改行を含んだ文字列を表示する

表題の件で相談があったので調べてみました。確認のために以下のようなAPEXアプリケーションを作成してみました。

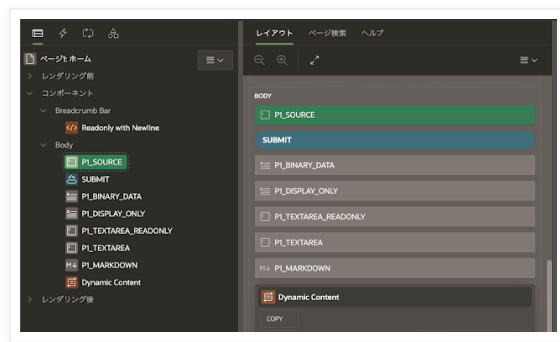
アプリケーションのエクスポートを以下に置きました。APEX 23.2です。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/readonly-with-newline.zip>



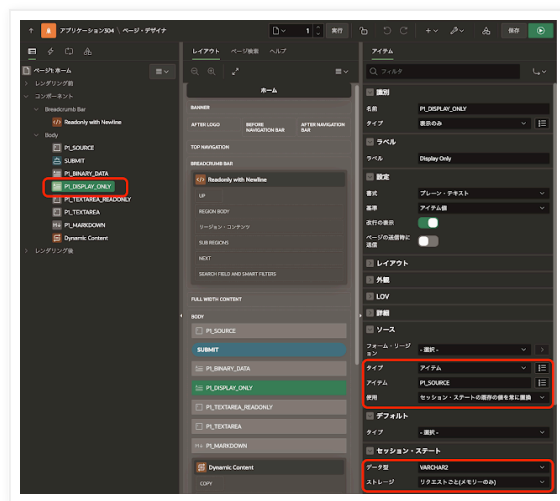
表示対象とするデータの入力に使用するページ・アイテムとして**P1_SOURCE**を作成します。ソースに改行が含まれているかどうか確認するため、**dump**関数を適用した結果を表示するページ・アイテム**P1_BINARY_DATA**を作成しています。

改行を含んだ文字列を表示する 4 種類のページ・アイテムと、ひとつの動的コンテンツのリージョンを作成します。



ページ・アイテムのソースの設定について

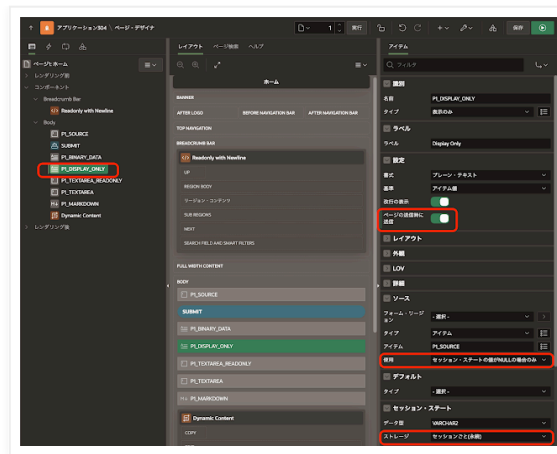
ソースのタイプとしてアイテムを選択し、アイテムにP1_SOURCEを指定します。使用としてセッション・ステートの既存の値を常に置換を選びます。セッション・ステートのデータ型に VARCHAR2、ストレージにリクエストごと(メモリーのみ)を指定します。



以上でP1_SOURCEの値を送信すると、その値がP1_DISPLAY_ONLY（または他のページ・アイテム）のソース（となるデータ）になります。

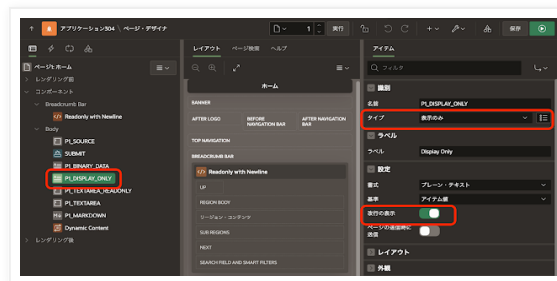
APEXに詳しい方であれば、使用はセッション・ステートの値がNULLの場合のみでも結果は同じじゃない？と思うかもしれません。セッション・ステートのストレージがリクエストごと(メモリーのみ)であれば、プロセスなどで設定していない限り、セッション・ステートの値はつねにNULLになるため、ソースの使用として、どちらの設定を行なっても結果は同じになります。ページ・アイテムに設定した値が反映されず、ひとつ前の値が表示されるような場合は、大抵はこの設定が原因になっています。

例えば、P1_DISPLAY_ONLYの設定のページの送信時に送信にオン、ソースの使用にセッション・ステートの値がNULLの場合のみ、セッション・ステートのストレージにセッションごと(永続)を選択すると、P1_DISPLAY_ONLYに値が設定されている限り、ソースとして設定したP1_SOURCEの値で置き換えられることはありません。

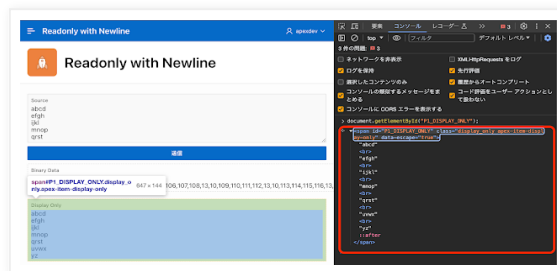


タイプが表示のみ

ページ・アイテムP1_DISPLAY_ONLYを表示のみで作成します。設定の改行の表示をオンにします。



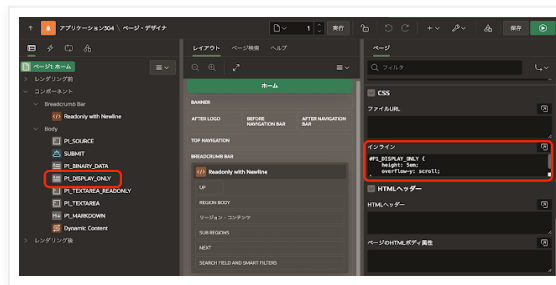
実際に出力されているHTMLを確認すると、SPAN要素としてP1_SOURCEの文字列が表示されています。改行の表示がオンなので、改行が
に置き換えられています。



Oracle APEXでは生成されたHTML要素に属性を設定したり、CSSを適用する方法が提供されています。

SPAN要素の高さを設定し、Y方向に溢れた文字列はスクロールさせるようにします。ページ・プロパティのCSSのインラインに以下を記述します。

```
#P1_DISPLAY_ONLY {
  height: 7em;
  overflow-y: scroll;
}
```

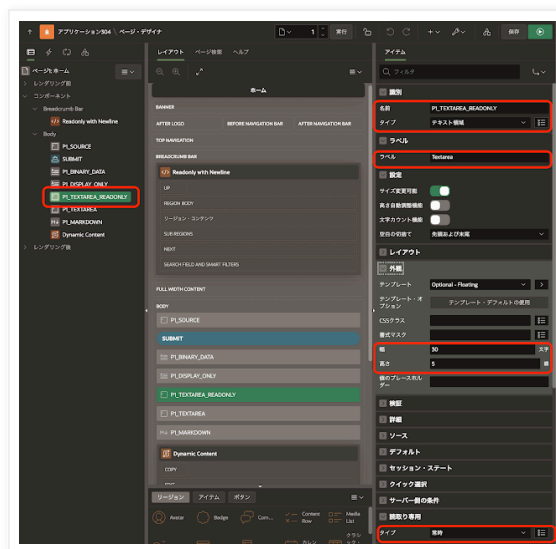


結果として**タイプが表示のみ**のページ・アイテムで、縦方向のスクロールが行われます。



タイプがテキスト領域で読取り専用が常時

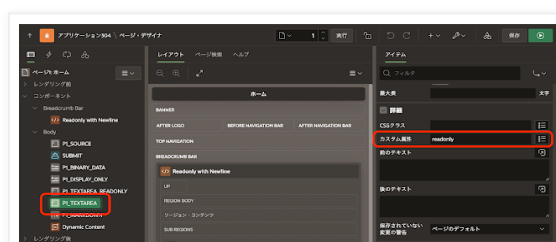
ページ・アイテムP1_TEXTAREA_READONLYを作成します。**タイプ**はテキスト領域、**読取り専用**を常時にします。



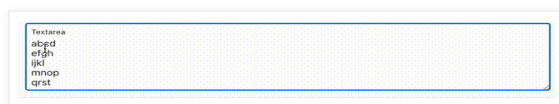
出力結果を確認すると**タイプがテキスト領域**であっても**読取り専用が常時**となっており、TEXTAREA要素ではなくSPAN要素で文字列が表示されています。つまり、**タイプが表示のみ**と同じです。

TEXTAREA要素のまま読み取りのみにするには、TEXTAREA要素に**readonly**属性を指定します。

HTML要素の属性は、**設定のカスタム属性**に設定します。

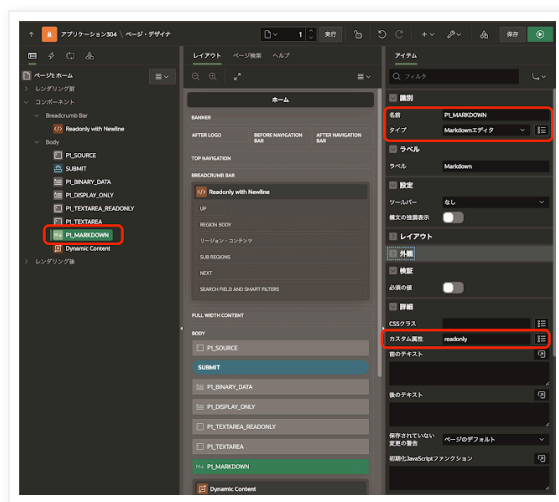


結果として、**タイプがテキスト領域のページ・アイテム**が変更不可になります。



タイプがMarkdownエディタ

改行の表示だけであれば、**タイプがMarkdownエディタ**も利用可能です。ただし、こちらでも**読取り専用**を常時に設定するとSPAN要素として出力されています。そのため、**テキスト領域**と同様に**設定のカスタム属性**として**readonly**を指定する必要があります。



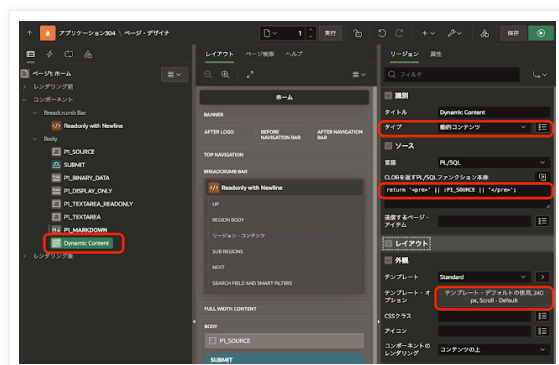
動的コンテンツのリージョン

ページ・アイテムではなくリージョンで表示することも可能です。

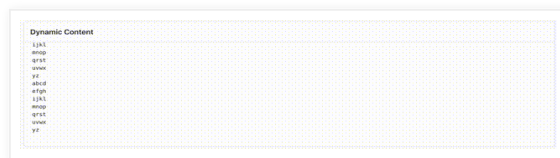
リージョンの**タイプ**として**動的コンテンツ**を選択し、改行が解釈されるように出力する文字列をPREタグで文字列を囲みます。

ソースのCLOBを返すPL/SQLファンクション本体は以下になります。

```
return '<pre>' || :P1_SOURCE || '</pre>';
```



テンプレート・オプションのBody Heightが設定されていると、リージョンの高さが固定されます。そのため、その高さから文字列の表示が溢れると縦方向にスクロールされます。



改行を含んだ文字列の表示についての説明は、以上になります。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 11:45

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.